

第 122 回 番組審議会議事録

- 1 開催年月日 令和 3 年 2 月 16 日 (火) 18 時 30 分
- 2 開催場所 久留米市中央町 35-20
ドリームスエフエム放送(株) 本社
- 3 委員出席 委員総数 5 名
出席委員数 5 名
出席委員氏名 田中 優子・石井 秀夫・濱田 耕治
(レポート) 酒井 香・木下 真吾
放送事業者側出席者 内藤 圭祐
- 4 議題 「教えて!ガッケン!!」
- 5 議事の概要 放送事業者が資料とともに 事前に CD に収録した番組を各委員に視聴頂き、感想、意見を述べて頂いた。
- 6 審議内容 ① 番組名: 「教えて!ガッケン!!」
② 放送時間: 令和 2 年 10 月 28 日,11 月 25 日,12 月 23 日,
令和 3 年 1 月 27 日 13 時 15 分～ 計 4 回
③ 放送形式: 録音番組
④ 審議の対象: 同上
⑤ パーソナリティ: 中村 美由紀
⑥ ディレクター: 内藤 圭祐

【番組コンセプト】

久留米市は 5 つの大学・短大と多くの試験研究機関が集まる学問と研究の街でもあります。久留米市では、各機関が手を取り合い地域の活性化を進めるため「久留米学術研究都市づくり推進協議会」を作り、教育、医療、産業振興など幅広い分野の連携を行っています。

この番組では久留米市内にある教育・研究機関を紹介しながら、普段なかなか知ることのない協議会団体の取り組みを全 5 回に渡って放送していきます。(令和 2 年 10 月～令和 3 年 2 月)

*今回は第 1 回～第 4 回放送分のみ審議

委員のご意見

「教えて！ガッケン！！」

- ① 過去の放送分のゲストは、ほぼほぼ若い方が多かったので多世代で番組構成があった方がよかったと思う。せっかく多様な研究機関が集まっている中でいろんな世代の人たちからの意見を聞いた方がよかったのではないかと感じた。例えばもう少し年齢が高い方にご意見をもらいながら進めてもらおうと、もっと面白い魅力的な話が出てくるのではないと思う。
- ② 番組内で学生が消防団に入って活動しているという話が出てきた。「消防団」は魅力的な内容だと思える。しかし実際、試験・研究機関をテーマとした番組に消防団という活動が直接関係ないので違和感があった。若い人がどういう活動をしているか、考えを持っているかというものを別のテーマを設けたときに話した方がよかったのではないか。若いときから消防団の活動をしてきているので、いかに魅力的で大事な活動かを理解してきているので、別の場所で消防団の活動をとらえてほしかった。この番組が持つテーマとは少し違う気がした。
- ③ 「教えて！ガッケン！！」という番組タイトルで推進協議会の大学や研究機関を取り上げていく企画はすごい面白いと思う。5回で終わりというのはいまいきというか、詰め込みすぎていて内容が踏み込み不足という印象を受けてそれぞれ1つずつ紹介していても面白いと思った。
- ④ 第1回の評議会・ガッケンの中身を紹介したとき、久留米市民の30人に1人が教育機関・研究機関に携わっているということは面白かった。大学・短大・高専があるのはわかっていただけこんなに多様な研究機関があるのはあんまりみんな知らないと思う。いくつか知っているけど知らないところもあって、それをやっていくのはよかったと思う。二人の喋りも上手でよかったと思う。ただ、その次から大学の取り組みで、個人の取り組み、ボランティアの活動を紹介していったので大学の研究内容ではないのかと違和感があった。
- ⑤ やっぱり今、時節柄コロナの時なので、できれば2回目は新型コロナウイルスのワクチン研究に取り組んでいるリサーチパークでそこだけを取り上げるとか、イチゴ、麹菌、センシング技術にしてもそれぞれすごくおもしろいので、回ごとに1つを取り上げて、インタビュー形式で一方的な説明にならないように掘り下げていって深めていく手法の方がよかったのでは。
- ⑥ 大学の取り組みもよく調べられている、見つけてこられていると思った。これはこれで面白かった。こんな活動をしている学生がいるんだなというのがあったが、ボランティアなどぎゅっと詰め込みすぎて一つ一つをもう少し聴きたい。例えば男子学生が言っていた「起業する」という話で、起業するならどんな企業をしたいのかなど。久留米高専はけっこう面白いことをいっぱいやっているんで、高専は高専だけでも取り上

げられると思う。そういうところがもったいないなと思った。一つ一つ丁寧に取り上げてよかった。

- ⑦ 聴いていて久留米の新しい魅力があるなと感じた。第1回で久留米市の人口1万人、30人に1人が教育・研究に従事していると聞いて久留米が学術研究都市であるということが数字で分かりやすく感じられた。イチゴの研究のところで話されていた。全国区のあまおうはもっと久留米から出ているというものをもっとアピールしていいのではと思った。また第1回の最後に「研究教育を地域に生かしてほしい」という言葉があって大学人としては身が引き締まる思いになった。学生の活動も面白くて、わかりやすく、若者が目標や夢をもって日々活動している様子があったのは頼もしく思った。ただ唯一気になった点としては、紹介されていた学生の活動と「ガッケン」が結び付く協議会団体とのかかわりが分からなかった。パーソナリティがわかりやくいいかえて表現していたので全体的に聞きやすかった。
- ⑧ 一見難しい協議会の説明を分かりやすく説明されており、音声だけでも理解しやすいと感じた。また、全体的に学生さんとの会話が固くなりがちな内容でも番組全体を明るく雰囲気になっていると思う。様々なテーマと企画に毎回感心した。
- ⑨ 男女平等の視点での意見を伝えるなら、第2回の学生さんへのインタビューで、メンバー3人を男女両方入れてあり良かった。信愛短期大学の宮原さんの消防団の話の際に消防団の女性の活躍についてアナウンサーの女性の方が素直に驚きと好感をもって表現されていたことも自然で良かったと思う。敢えて言うならアナウンサーの方が、宮原さんが「若い男性が少ない」と言われたことに対して男性の学生さんのみに話を振られたが、もうひとりの女性にも一緒にどうですかと話を振ってほしかった。第3回では、聖マリアの斎藤さんを紅一点とご紹介されていたのが気になった。また、高専の4人はすべて男性で、高専のイメージが男性となってしまうのではないかと感じた。活動している仲間を出てくれるのは男性だけだったなど理由はあるのだろうが近年女性が増えている学校のひとつでもあるので少し残念だった。第4回でも全員男性であり、意識して女性の方も入れるのがよかったのではないかと感じた。理系を志望する女子学生、いわゆる「リケジョ」を増やす取り組みは女性活躍の視点から内閣府が積極的に推し進めている。大学の専攻分野はまだまだ理学や工学など理工系を選択する女性が少ない状況である。その要因は「理工系分野は男性中心の仕事であり、女性は向いていない」という誤った先入観や固定的性別役割分担意識があるといわれている。学生自身は、ジェンダーバイアスはなく、むしろ親世代の意識改革が必要ともいわれている。今回の番組に限らず、積極的に男女両方に出演してもらおう方向での働きかけを行ってもらえると更に久留米市の男女共同参画が進むものと感じている。
- ⑩ 久留米学術研究都市づくり推進協議会を作り、教育・医療・産業振興など幅広い連携を行っていること、久留米市は、現在1万人の方が協議会に関わっている。これは町の資源になっているということであると思えた。協議会の活動の可能性を高めるために沢山の学生、研究者だけでなく、ボランティアで子供や地域に活動を広げて久留

米への愛着へつなげていることで、久留米に就職したり住んでもらったりにつながると思った。27年もの歴史があるのにこのような団体がある事を知らなかった。もっとたくさんの方に周知していくために、番組を通じて発信し、久留米の魅力を伝えていければと思った。また、他の機関の具体的な活動が分かればもっと良くなると思った。

7 審議機関の答申又は意見の概要の公表

公表の方法 自社ホームページへ掲載

8 次回の審議委員会は、令和3年10月下旬に行う予定